2014年（平成26年）
第76号
（4月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

全国車いす駅伝を縁の下で支える　本会青年部員たち

３月８･９日の２日間、第25回全国車いす駅伝競走大会が開かれ、主催者のひとつである「ユース 21 京都」のメンバーである本会青年部が、ボランティアとして大会裏方を勤めました。

１日目の日、開会式がグランドプリンスホテル京都（京都市左京区）で行われました。９名の青年部員がホテルの向かいにある国立京都国際会館の駐車場で全国から自動車で来られる参加者の誘導、案内をしました。

また、開会式の後に実施された交歓会では、京都教会青年部長である澤村ユース21 京都理事長が開会のあいさつに立ち、選手たちを激励しました。

交歓会であいさつする
澤村ユース 21 理事長

選手と役員による
鏡割りをしました

２日目の９日はレース本番です。国立京都国際会館前から西京極陸上競技場までの５区間、21.3 キロのコースで競い合いました。例年は２月に実施されていましたが、京都マラソンが２月に実施されたため、３月に日程を変更して開催されました。そのため、穏やかな日差しの下、２６チームが懸命に都大路を駆け、沿道から大きな声援が送られました。

都大路を疾走する選手

閉会式でび主催者代表

２日目のボラティアには 16 名の参加がありました。西京極競技場で選手のレーサー車いす、常用車いす、荷物を運ぶ手伝いをしました。また、選手がバスから降りる際に降車介助をしました。（下写真）

選手の大切なレーサーを運んだり、バス乗降の介助をしたりと気が抜けない部分もあり、ボランティアに参加した青年部員たちは緊張しましたが、選手と触れ合ことによって「自分たちのボランティアの大切さにも気がつくことができた」と語っていました。

時々刻々

四月に入り、新年度・新学期を迎え、あっちでもこっちでも装いを新たにしています。サクラの花が咲き広がり、街中がすっかり色づいてきました▼市バスも系統や路線に色分けがなされており、雰囲気が変わりました。車内の表示も工夫がなされ、分かりやすくなったと評判です▼とはいえ、観光に来られた方は、道不案内のためバス停で、スマホと行き先の表示をにらめっこする若者をよく見かけます。そんな時「どちらに行かれるの？」と声かけするようにしています▼世の中は便利なものが増えて、何でも分かると思っている人が多いようですが、いざ行動しようとすれば、どうすればいいか迷ってしまう▼新しい舞台を迎えた新人・新入生たちには、分からなくなったら、どんどん尋ねることを勧めたい。聞かれる方はちゃんと応えていけるように、日頃から心がけて頂きたいものです。

自己の尊厳を自覚し、大きな視野を持てるように　　文化部長　杉江　末吉

今年から京都教会の部長の役に就く者が同信の仲間として、佼成誌の会長法話から学んだことや気づいたことを掲載しています。今回は、教会でコーラスや鼓笛、バトン、箏曲など活動を統括している文化部長の杉江が執筆しました。

会誌「佼成」毎号の「会長法話」では法華経に説かれている事柄を分かりやすく教えて頂いています。今回のタイトル「大きな願いに生きる」です。

【比べるから苦しむ】

人間は妬(ねた)んだり、卑下したり、驕慢(きょうまん)になったりして人間関係を損なったり、諍(いさか)いに発展したりすることがありますが、それは「大事なこと」が分かっていないからだと指摘されています。

その要因として人間は浅はかなもので「人と比較する」ことから始まると言われています。**比較することで嫉妬や自己否定、あるいは驕慢などの感情が芽生えて悪い方向へ向かって**しまいます。

現在世界中で発生している民族間・宗教間の争いで内戦に発展したり、いじめ・虐待・見境のない殺人などニュースソースに事欠きません。一国の首長の利己主義・傲慢から内戦に発展して追放された例は多くありましたし現在も多々見受けられます。日本政治情勢でも戦争へ波及しかねない動きが見られます。これらはすべて他者と比較してより有利にしようとするところから生まれていると思います。

４月８日は釈尊の誕生日「降誕会」ですが、お生まれになったとき「天上天下唯我独尊」と言われたという逸話がありますが、これは「広大な宇宙にあって、人間は一人ひとりみな尊厳なる存在である」ということの宣言だと教えられているのです。

自己の尊厳を自覚できる者は他者の尊厳も見えるので比較する必要がなくなり、「まんまるの心」で不幸からも怒りの感情からも抜け出せるようです。そうした心をコントロールする方法を法華経は教えているのであって、その信仰から喜びが生まれるものだと教えて頂いています。

【自分を発見する】

比較することで競争心を起し、発奮して向上に繋げることができれば、比較することは反面良いことでもあると言えるでしょう。

法華経の講義を受け始めたとき「あなたは何のために生きているのですか？」と質問されて「はた」と困ってしまいました。私は「人に迷惑を掛けないようにして幸せに生きたい」と答えたと思っていますが、これでは自分だけの殻の中に閉じこもってしまって、人に影響を及ぼさない狭い了見だと言えます。

「諸行無常」「諸法無我」を理解・認識して「涅槃寂静」の境地に至るように、「大事なこと」の本質は**人間本来持っている「仏性」を前面に出して**対処できれば理想の形です。それはたゆまぬ努力の積み重ねがなければ達成できないことだと認識しておりますが・・・・・

大きな視野にたってすべての事柄に穏やかに対応できれば周りはすべて和やかに丸く収まることでしょう。このような状態が人間本来の尊厳が現れた「人格の完成」であって「世界平和の達成」に繋がる「大きな願い」であろうと思います。

明るい社会づくり運動　全国集会 in 京都　講演会の講師らが決まる

３月21日、第１回全国集会実行委員会が開催されました。９月６日、７日に予定されています「明るい社会づくり運動　全国集会　in 京都」の内容について協議され、下記のような実施概要が決定しました。

①日時：平成26年９月６日（土）13時～
　　９月７日（日）12時半まで
②会場：講　演　会　国立京都国際会館
　　交流懇親会　グランドプリンスホテル京都
　　二　日　目　比叡山延暦寺・延暦寺会館
③宿泊：グランドプリンスホテル京都
④定員：300名（宿泊参加人員）
⑤主たる内容は次の通りです。

１日目は、作家でゴミ拾い活動を推進する荒川祐二氏により、「誰にもできることを積み重ねて生きる」と題して基調講演が行われます。

続いてのパネルディスカッションでは、コーディネーターとしてＮＰＯ法人にんじん常務理事の槇ひさ恵氏、パネラーに荒川氏、NPO 法人ふじみ野明社代表理事の北沢氏、こまつ NPO センター代表理事の久保氏が立ちます。

２日目は、比叡山延暦寺で今出川行雲大僧正から、「一隅を照らす」と題してご法話をいただくことになりました。

神社本教のご奉仕による慰霊祭　～京都市深草墓園春季慰霊式典にて～

３月23日、京都市深草墓園において京都市主催の春季慰霊式典及び遺族会主催の春季慰霊祭が執り行われました。本墓園では、墓園に眠る霊を慰めるために、毎年春秋の彼岸ごとに実施している式典です。

慰霊式典では、門川京都市長の式辞、橋村市議会議長の弔辞、遺族会代表の弔辞、そして遺族会代表による献花が行われました。

慰霊式典終了後、京都の宗教者が交代で奉仕し、それぞれの作法によって慰霊祭が行われます。今年は、神社本教が奉仕されました。

斎主による､のり詞奏上と斎主玉串奉奠がなされて、来賓玉串奉奠に移ります。最後に参列されている、遺族の方による焼香が行われました。

第31回庭野平和賞　ディーナ・メリアム氏に決まる

２月28日、京都東急ホテルにおいて第31回庭野平和賞受賞者の公式発表が行われました。今回は､「女性による世界平和イニシアチブ（ＧＰＩＷ＝Global Peace Initiative of Women)」の創設者ディーナ・メリアム氏に贈られます。

公益財団法人庭野平和財団が、世界125カ国、約600人の学識者、宗教者らに推薦を依頼し､「庭野平和賞委員会」で厳正な審査を行い、決定しました。

メリアム氏は米国ニューヨーク郊外に生まれ、青少年の時期よりユダヤ教徒との交流を持ち、宗教に興味を持ちました。成長するにつれて、インド文化に魅かれ、ヒンズー教徒になりました。

2002年にＧＰＩＷを創設し、世界の紛争地域で当事者間の対話を促すために、女性宗教者による宗教的・精神的な支援などの平和活動を行っています。

贈呈式は５月16日に東京で行われ、記念講演会が行われます。

地域の方々とともに歩める京都教会を目指して　～地域の防災拠点として～

３月10日夜、京都教会に地元自治会の役員の方々と東山区地域力推進室の担当者が来られて、教会役員と「避難所運営マニュアル」についての打ち合わせが行われました。

昨年11月７日に東山区24番目の避難所として、京都教会が指定を受けて以降、地元住民の方々が区役所と検討を重ねられ、教会を避難所とした場合のマニュアルのたたき台ができ上がりました。

そこでこの日は、そのマニュアルの内容について、教会側が提供できる項目について確認するために会議がもたれました。避難所として、２階法座席を優先使用してもらうことなど、利用者に安心してもらえるようにする方向で検討が進みました。

最後に佐藤教会長から、京都教会（普門館）は庭野開祖が４つの願いをもって建設されたことを紹介し、これを機会に地域住民の方々に開かれた教会であることを目指していくと述べました。

立正佼成会京都教会
避難所運営マニュアル
～いのちと暮らしを守る視点を共有し、困難を乗り越えていこう～

ＷＣＲＰに情熱を注ぐ人　WCRP 国際委員会副事務総長　杉野恭一氏　に聞く（3）

前回はスリランカとタイにおける諸宗教協力の活躍を紹介しました。今回は、ミャンマーでの取り組みを紹介します。

《ミャンマー諸宗教評議会の発足》

２０１３年６月ミャンマーを訪問し、WCRP ミャンマー委員会の仏教、イスラム教、キリスト教、ヒンズー教の加盟諸団体により実施されている「諸宗教協力による子供の生存、保護プロジェクト」の現場を訪れました。**発足に際しては、テイン・セイン大統領からのメーセージが読み上げられ、約 10 ヶ国から各国の大使も参加しました。その後、オバマ大統領がミャンマーを訪問し、ミャンマー諸宗教評議会のメンバーと交流を深めました。**

ミャンマーでは、年間５万６千人の子供達が命を失い、そのうち４万３千人は５歳未満の幼児です。５歳未満の幼児の死亡は、以下のような簡単な意識変革、生活行動変革によって防ぐことのできるものと言われています。

- 生後６ヵ月間の完全母乳育児の実施
- 蚊帳(かや)の下で眠ること
- 子どもたちが下痢性疾患に陥った時は、経口補水塩を与えること
- 石けんで手を洗うこと
- 子どもたちに、（予防接種などの）予防的保健サービスを提供すること
- 子どもたちに病気の兆候があったら、直ぐ保健センターに連れて行くこと

このようなプロジェクトを、宗教協力を通して行っています。**これは非常に重要な概念で、宗教協力をする場合に、有名な宗教指導者が集まって会議をするのは、すでに昔の話です。今は、宗教コミュニティーがみんなで一緒になって、ユニセフなどと共に共通の課題に対して取り組んでいく時代になって来ています。**

（次回が最終になります）

オバマ大統領とクリントン国務長官を案内する
ＷＣＲＰミャンマー委員会のメンバー

渉外部からのお知らせ

●４月～５月初旬の主要行事予定

４月	４日	開祖さまご命日	9：00～
	６日	花まつり	10：00～
	８日	降誕会	9：00～
	１０日	脇祖さまご命日	9：00～
	１５日	釈迦牟尼仏ご命日	9：00～
５月	１日	朔日参り	9：00～
	１０日	脇祖さまご命日	9：00～
	１５日	釈迦牟尼仏ご命日	9：00～
	１８日	こころひとつにフェスティバル	9：00～

●メッセージ

ある議員さんのフェイスブックを拝見していると、京都の立命館高校が３月に修学旅行で東京の議員会館に行ったとか。そこで各党の議員を招いて自分たちの政策討論会を開催したらしいのです。その企画、司会進行は全て同校の生徒さん。しかも、先生に言われたのではなく自主的に計画したとのこと！驚くばかりですね。どのような政策が討論されたのか、大変興味があります。卒業すれば２年で選挙権。このうちから政治に関心を持つことは重要なことだと思います。